



井戸商店社長
井戸 和彦氏

実力以上の相場、大荒れも

ス面からすると、これは実力以上の相場。頭打ちとなれば、下げが下げを呼ぶ展開で、するするいく可能性が高い。欧洲諸国の財政問題も水面下でくすぐつており、懸念材料だ。

2月あたりにかけ、600ドルまで下落。欧洲財問題の再燃など悪条件が浮上すれば、チャート的に5600ドル程度まで想定される。為替は1ドル=80~85円でモミ合い。銅建値は52万円か。178万円か。

7000—8500ドル、暴落はない

下学期は大荒れの展開を予想。ロンドン金属取引所(LME)の銅現物は、目先しばらく上げ基調が続きそうだが、年明け後はトン60000ドルを割り込む可能性もあるとみている。

歐米の金融緩和を背景に、足元はファンダムが金をはじめとする商品市場へ積極投資。チャート分析ではニューヨーク商品取引所(COMEX)の銅当限が、4月の直近高値ボンド362・60ドルを突き抜けた。し

銅 下半期は大荒れの展開を予想。ロンドン金属取引所(LME)の銅現物は、目先しばらく上げ基調が続きそうだが、年明け後はトン6000ドを割り込む可能もあるとみている。

A black and white portrait of a man with glasses, wearing a dark suit and tie. He is smiling slightly and looking towards the camera. The portrait is set within a circular frame.

しかし、景気刺激策の終了に伴う需要の反動減が、これから表面化する。米国の大金融緩和によるドル安説導にも限界があるため、非鉄金属相場を取り巻く環境は悪化。ただ、世界的な景気の一番底懸念は沈静化した。銅地金のタイト感も基本的に継続するとみており、リーマン・ショック後のような暴落はなさそうだ。

足元はフアンドの

6500—8500ドル、米・中・欧に注目

銅

①はIMFが金融危機で400兆円が消滅しうち米国が270兆円を占めると発表しており、住宅など米国消費回復には時間がかかるとみる。②は温家宝首相が「住宅価格の安定が債務」と発言。金融の引締め懸念がいまだに強い。③は独ZEW経研による9月独冒況感はマイナス4・3と、2009年2月以来の低水準となつており、債務問題を含め自律回復には程遠い。この3点から、米国消費が早急に回復するとは考え難く、また中国もこれ以上のバブルは望んでいない。欧州経済も息切れしており、追加景気対策が各国から出れば、鉱石不足による供給懸念でLMEは8500㌦をめざすだろう。もし対策がなければ、足元の景気伸び悩みから6500㌦まで下落する。

1900—2500フ_ル、歐米で震災回復

上位に位置する金の流入増で、トン2500gに急騰する可能性がある。とはいっても、ファンダメンタルズでアルミ単体の材料は見いだしにくい。一方の下値は欧洲の製錬コスト高が相場を

上値は投機資金の流入増で、トン2500ドルに急騰する可能性がある。とはいへ、ファンダメンタルズでアルミ単体の材料は見いだしつづく。一方の下値は欧洲の製錬コスト高が相場を下支えし、1900ドルが妥当なところか。

内需はエコカー補助金終了の影響で、自動車メーカーの一の緩やかな减速と、為替の円高を受けた海外生産シフト加速が懸念されるなど、明るい見通しは立てにくい。一方、欧米は実需回復がゆっくりと進み、下期も堅調に推移する公算が大きい。

原料は、国内発生がようやくリーマン・ショック以前の水準に戻ったようだが、集荷業者の増加を受けて、仕入れ競争は依然して、専業問屋は適正マージンが確保しづらい。下期

銅電線5.3

GSユアサ 新型モジュール開発 産業用リチウムイオン

しかし、景気刺激策の終了に伴う需要の反動減が、これから表面化する。米国の金融緩和によるドル安誘導にも限界があるため、非鉄金属相場を取り巻く環境は悪化。ただ、世界的な景気の一番底懸念は沈静化した。銅地金のタイト感も基本的に継続するとみており、リーマン・ショック後のようた暴落はなさそうだ。

こうした70000—85000ドルレンジの値動きは、今後2—3年継続するのではないか。為替は、日本の単独介入では円安誘導に限界があり、1ドル=78円の過去最高値圏まで円が上昇し

銅相場は6500ドルから8500ドルで推移。経済対策がほぼ終了しており、今後は自律回復や追加景気対策に左右される。以下3点に注目している①米国の住宅関連指数②中国の金融政策③欧州の経済指標。

①はIMFが金融危機で400兆円が消滅し、うち米国が270兆円を占めると発表しており、住宅など米国消費回復には時間がかかるとみる。②は温家宝首相が「住宅価格の安定が急

1900—2500フ^ル、歐米で実

上値は投機資金の流入増で、トン2500ドルに急騰する可能性がある。とはいえる、ファンダメンタルズでアルミ単体の材料は見いだしつづく。一方の下値は欧洲の製錬コスト高が相場を

8月出荷 銅電線 建設

GSユアサ 新型モーター 産業用

1の緩やかな失速となり、この円高を受けた海外生産シフト加速が懸念されるなど、明るい見通しは立てにくい。一方、欧米は実需回復がゆっくりと進み、下期も堅調に推移する公算が大きい。

原料は、国内発生がようやくリーマン・ショック以前の水準に戻ったようだ。だが、集荷業者の増加を受けて、仕入れ競争は依然烈で、専業問屋は適正マージンが確保しづらい。下期は二次合金メーカーの生産減が予想されるが、铸物材の需要が好調なため、小幅減産にとどまるところ。相場は大口ユーザー向けの10～12月期AD12・1販価の安値決着が響き、上値の重

GSユアサ 新型モーター 産業用

日本電線工業会は
のほど、国内電線メー
カー約130社の81
銅電線出荷量を、速
報で前年同月比5・
%増の5万3300t
(銅量)と発表した。
使用量の最も多い建築
・電販部門が、23カ月連
続の前年同月比プラス
見込み。一方、光製品
出荷実績は6月、7月
と2カ月連続の前年
月比マイナス。

を、同日
と発表
ルギー密
向上させ

岡村金属社長
岡村 穎吾氏

尚村 首白氏

専門家に聞く